

情報社会と情報倫理		講義	准教授 関川 弘
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11322214

1. 授業のねらい・概要

インターネットをはじめとする情報技術の発達によって私たちの生活は大変便利になった。しかし、その反面、情報技術は従来になかった新たな社会的な課題を生み出している。情報技術を活かして社会をさらに良いものにするためには、利便性の向上など情報技術がもたらす良い面を活かすとともに、サイバー犯罪などの悪い面を抑える必要がある。本科目では、社会と情報技術のありかたについて考え、適切な行動がとれる素養を身に付ける。

2. 授業の進め方

配布資料を基にした講義形式で進める。毎回、課題を出し意見を求め提出された内容についてディスカッションする。また、海外の文献や雑誌に掲載されている英語による最新記事や動画を用いて関連動向について検討する。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. IT業界の下請け構造について考える
2. 情報倫理について考える	10. 知的財産権の侵害と影響について考える
3. 技術革新と指針の空白について考える	11. デジタルデバイドについて考える
4. 技術革新がもたらす社会変化について考える	12. ソフトウェアの信頼性について考える
5. インターネットと共有地の悲劇について考える	13. サイバー犯罪について考える
6. ビッグデータを保有する企業の責任について考える	14. 関連する最新の英文記事、英語動画の解説
7. インフルエンサーの影響について考える	15. 講義のまとめ
8. 人工知能活用における課題について考える	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備として1時間程度、インターネットや関連文献を用いて調査すること。毎回の講義終了後30分程度、学習した内容をどれだけ多く、正確に説明・解説できるか自身で試みることを。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

回答のポイント、及び出題の目的を説明した資料を配布する。また、毎回の講義で質問を受け付ける。レポート提出を求める場合、いくつかのレポートを事例に取り上げアドバイスをを行う。

6. 授業における学修の到達目標

情報技術の進歩により次々と新しいサービスが登場する。そのような変化の中でも、自ら考え、適切に情報技術やサービスを活用できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）と毎回講義後に提出を求める講義サマリー（30%）、授業への貢献度（20%）で評価する。サマリーについては、どれだけ多く思考したかを基準に評価する。

8. テキスト・参考文献

資料を毎回プリント配布する。教科書は用いない。参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

提出された講義サマリーを基に授業中ディスカッションを行う。積極的にディスカッションに加わることを。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、情報システム開発会社における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。